

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の資質・能力を向上させるため、ICTを活用した組織的授業改善に取り組む。</p> <p>②新学習指導要領に対応した教育課程を編成し、大学進学等の進路希望を実現させる学習指導を充実させる。</p>	<p>①ICT活用能力のさらなる向上を目指しOJTや公開研究授業を組織的に実施する。1人1台端末の活用を進めながら校内ICT環境を整備する。</p> <p>②新学習指導要領の実施に伴い、教育課程編成上の課題を見出し対応を検討していく。</p>	<p>①これまでに積み上げたICT活用方法を土台に、幅広い活用ができるようソフト・ハードの両面でICT環境を整備する。</p> <p>②新学習指導要領の教育課程を展開する中で、課題を整理し、適切な方法を検討し即時に対応できたか。</p>	<p>①教員のICT活用拡充に向けて、その手立てを組織的に検討することができたか。</p> <p>②見出した課題について、当該教科や関連グループと連携して適切な対応がとれたか。</p>	<p>①10月に実施したICT活用をテーマとした公開研究授業の実施や日々の教科内の打合せ等で活用法の情報交換などが進んだ。</p> <p>②指導と評価の計画の策定や観点別評価の重み付けについて教科内で十分に検討がなされた。</p>	<p>①1人1台端末が段階的に拡充されていくので、今後も継続的な教科内の打合せを重ね、また他校からの情報等も積極的に収集していく必要がある。</p> <p>②順次新しい教育課程上の科目が開講されていくので、入学から卒業までを見通した指導法と評価法を常に検討していく必要がある。</p>	<p>できることは全て手を打っている。各GLがグループ業務を適切に進めている。中学高校の学習は就職においても大切なので、学力を「生きるための力」ととらえてほしい。授業改善は「探究」をキーワードに進めてほしい。ICT活用について幅広い活用ができるように環境整備が行われている。継続的に指導内容の充実を進めてほしい。</p>	<p>① ICTを活用した授業改善をすすめるとともに、ICT環境を整備した。1人1台端末導入1年目の教育活動の成果を踏まえ、さらなる活用に向けて教育活動を整備する必要がある。</p> <p>② 新学習指導要領に基づき、本校の魅力と特色を具現化した教育課程の1年目を実施した。来年度からの実施の中で、必要な整備を継続していく。</p>	<p>① 1人1台端末に対応した教育環境を整備するとともに、その実践力向上のため授業改善をすすめる。</p> <p>② 新学習指導要領の1年目の実施状況を踏まえ、必要なカリキュラム・マネジメントをすすめる。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。</p> <p>②組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。</p> <p>④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。</p>	<p>①生徒の規範意識を高めるとともに、生徒自身が規範意識に結びついた行動がとれるよう保護者等と連携しながら取り組む。</p> <p>②日常的に生徒情報を共有するとともに、支援が必要な生徒に対し外部資源を積極的に活用する。</p> <p>③生徒主体の学校行事・部活動運営を支援しリーダーシップを育成する。</p> <p>④部活動加入率、継続率の向上を目指し、部活動の活性化を図る。</p>	<p>①遅刻指導では遅刻の原因、改善のための方策を生徒と一緒に考え、遅刻が改善されるよう指導を行う。</p> <p>②SC、各年次の教育相談担当で情報共有を行い、支援が必要な生徒には、外部資源の活用を含めて対応する。</p> <p>③生徒が主体的に学校行事に参加し活気ある活動ができるよう支援する。</p> <p>④生徒会役員や部活動加入生徒と連携をし、加入率向上や活性化に向けた取り組みを支援する。</p>	<p>①遅刻を繰り返す生徒が自らの行動を振り返り、行動を改善することができたか。</p> <p>②情報共有の中から支援が必要な生徒を早期に発見し、SC・SSWや外部資源に活用ができたか。</p> <p>③委員会や生徒会執行部の活動、部活動を生徒主体で進めることができたか。</p> <p>④部活動の加入率を高め、継続率は80%以上であったか。</p>	<p>①生徒が行動を振り返り見直しをする機会となった。しかし、行動の改善に結びつかない生徒もいた。</p> <p>②SC利用とともに、SSW、特別支援学校の巡回相談、総合教育センターを活用することができた。</p> <p>③体育祭、文化祭、球技大会などの運営面における生徒の主体的な活動が見られた。</p> <p>④新入生の入部率は前年度の加入率を上回った。部活動継続率は80%以上であった。</p>	<p>①生徒とコミュニケーションを取り、人間関係を構築しながら粘り強く指導をしていく。</p> <p>②SCへの相談を希望する生徒が多く、相談枠が十分でない状況がある。リピーターについては、日常的な生徒情報の共有を更にすすめるとともに振り返り時間で以降の相談の必要性の有無を職員間で精査する。</p> <p>③各行事で生徒が活躍できるよう、部活動や委員会の役割を設定し盛り上げていく。</p> <p>④入部率を高められるよう広報活動の充実を図る。また、設備においても支援する。</p>	<p>生徒の行動が落ちてきている。教育相談におけるSC・SSW活用を評価したい。中学校では教育相談期間を設定して対応しているので参考にされたい。遅刻指導について、高校入学前に基本的な生活習慣が身に付いていない生徒の改善は難しいので、家庭との連携が大切である。生徒主体の学校行事や部活動の運営を行うことにより、リーダーシップ育成や人間形成を期待する。校則については学生の自由な意見も大切だが、一方、学校として「骨格」を作ったうえで外部等の意見を聴取したほうが良い。多様性の中での統一したルールが必要だと考える。</p>	<p>① 生徒の規範意識を高めるため、保護者との連携体制を整備した。今後もさまざまな場面を通じて連携を強化していく。</p> <p>② 日頃より生徒情報の共有に努め、支援が必要な生徒には、外部資源も活用した支援を行った。</p> <p>③ 生徒会役員等の主体的な取組をすすめるとともに、感染症対策に配慮した上で学校行事を実施することができた。</p> <p>④ 部活動の活性化に向けた取組を行ったが、期待以上の活性化につながられなかった。さらなる取組を工夫する必要がある。</p>	<p>① 保護者・地域・生徒会役員等とも連携して、生徒の規範意識を高める取組を行う</p> <p>② 生徒情報の共有化をすすめ、外部資源の活用や特別支援学校の巡回相談、新たに配置されるSSWを積極的に活用してより有効な支援体制を構築する。</p> <p>③ 生徒の自己肯定感や他者を尊重し協働する態度の涵養につなげることを意識した学校行事を実施する。</p> <p>④ 生徒会役員や部活動加入生徒と連携し、新たな感染症対策を踏まえ、加入率向上や活性化に向けた取組を工夫する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察することができる進路指導を展開する。	①生徒の進路希望実現に向けて、学校・家庭が一体となった進路指導体制の充実を目指す。 ②ICT を活用しながら、生徒の学力向上に向けての支援を行う。	①教員のガイダンス力を高める研修会を実施するとともに、保護者等が進路に関する情報をより多く収集できるような説明会を開催する。 ②1・2年次生については全員年3回の模試を契機に学力や学習習慣を改善させる。3年次生については外部模試の受験を積極的に促し、進路選択の幅を広げさせる。	①今日の進学や就職の状況やポイントについて情報を発信および共有し、よりよい進路指導につなげることができたか。 ②教育支援システムを活用し年3回の模試の分析結果を生徒に提示することで改善を図ることができたか。延べ20名以上の3年次生が外部模試を受験し、その結果を進路選択に活かされたか。	①教員に新教育課程の入試科目の変更点等を遅滞なく伝達できた。保護者に時期を得た説明会を開催することができた。 ②模試の分析結果を周知したが活用について改善したい。3年次外部模試は、働きかけの効果は見られなかった。	①情報の提供が3年次に偏りがちになっていることを解消するため、1・2年次の生徒・保護者を対象とした説明会の開催を検討する必要がある。 ②1・2年次については、模試受験の意義や効果を再検討する必要がある。また3年次対象の外部模試についても校内実施の有無を含め検討を要する。	成果が出ている。幅広い進路、幅広いニーズに対応している。具体的な進路から逆算して何が必要なのか、生徒自身が考えることができることと理想的である。自己の将来を洞察することができる進路指導に努めていただきたい。 早い段階で進路が決まった生徒をケアする必要がある。進路指導において、ICTの利活用をさらに進めてほしい。	① 感染症対策にも配慮した上で、計画的なキャリア教育を実践できた。今後もさらなる改善を加え、生徒の希望進路実現につなげる指導・支援を行う。進路情報提供が3年次中心になってしまった。 ② スタディーサポートの活用により、生徒の学習習慣の見直しに結びつけることができた。今後は、業者の見直しも含め、探究活動や学習支援を充実させる。	① ICT の利活用をさらに進め、生徒の希望進路実現につながる進路指導に改善を加える。1・2年次の生徒・保護者への情報提供の機会を設定する。 ② 2年次・3年次についてはスタディーサポートの活用を定着させ、3年次生徒の進学指導を充実させる。1年次については進路実現のため、学習習慣の定着、学習支援・探究活動の充実を図る。
4	地域等との協働	地域の教育力を活用し、実践教育を推進する。また、本校の教育活動を積極的に発信し、相互理解を深める中で地域に貢献する。	①新型コロナウイルス感染症との共存の中、地域との連携・交流の可能な場面を模索し、相互に有益な協働を実現する。 ②日々の学校生活に表れている本校の魅力と特色を分かりやすく発信することで、地域からの信頼を得られるようにする。	①感染症対策を徹底した上で、地域のボランティア活動等に生徒が安心して参加できる環境づくりを行う。 ②対面での情報発信が難しい中、ホームページの更新回数を増やし、新しい情報を具体的視覚的に発信する。	①地域との交流を経験した生徒の7割以上が達成感を覚え、自分の成長を感じることができたか。 ②学校説明会や学校見学会での情報発信と、ほぼ同量同質の情報をホームページから発信することができたか。	①音楽系部活を中心に地域イベントの支援や演奏等ボランティア活動を行った。全生徒が地域清掃を行い地域貢献意識を高めた。 ②月に5～6回程度のHP更新を行い、本校の教育活動をリアルタイムで発信した。	①部単位のボランティア活動は定着し、継続的に実施できたが、個人での参加者が少ないので、広報活動を充実させる。感染症対策のため地域協働は、情報発信やオンラインによる相互理解を深める。 ②感染症対策のガイドライン緩和を受け、説明会・見学会の参加可能人数を検討する。	様々な制限の中で活発に行っている。防災・防犯・環境等学校とともに地域と一緒に成長していきたい。来年度は各種の地域行事を復活させ、緑園高校生の成果発表の機会を多く作ってほしい。 ②広報(学校説明会)について、オンラインの活用を検討してほしい。	① 地域交流・地域支援については、感染症対策を取りながら、実施することができた。 ② ホームページのこまめな更新に努め、情報発信をすることができた。今後もさらなる整備をすすめ、魅力あるホームページにしていきたい。	① 地域との協議により、感染症対策に配慮した地域交流を企画し、実践していく。 ② ホームページのコンテンツを見直し、本校の魅力を発信するとともに、より一層更新頻度を高めていきたい。
5	学校管理 学校運営	①学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ②三ツ境養護学校分教室の受入れを完成し、本校の教育活動との融合を図り、インクルーシブ教育をすすめる。 ③事故・不祥事を起こさない職場づくりをすすめる。 ④教職員の働き方を見直し、休暇取得率をあげる。	①感染症対策を継続し、家庭を含めた学校の衛生管理体制と防災体制を確立する。 ②本校の教育活動との融合計画を策定し、インクルーシブ教育の実践に備える ③常に当事者意識を持ち、不祥事をゼロとする職場づくりを行う。 ④休暇の取得日数の増加と超過勤務時間の減少を目指す。	①清掃活動・消毒作業の徹底を継続するとともに、PTA と連携して、家庭での感染対策の向上を図る。危機管理マニュアルを策定する。 ②ワーキンググループを中心に融合計画を策定する。 ③不祥事防止研修や事例紹介を継続するとともにセルフチェックを徹底する。 ④衛生委員会を活用して、休暇取得状況及び超過勤務時間集計をチェックして、職員に啓発する。	①衛生管理体制を向上させ、感染者数を昨年度より減少させることができたか。危機管理マニュアルを完成・周知することができたか。 ②融合計画を策定し、インクルーシブ教育の実践に備える研修を実施できたか。 ③当事者意識の高い職場をつくり、不祥事ゼロを達成できたか。 ④昨年比で休暇の取得日数は増えたか。超過勤務時間の平均は減少したか。	①マスク会食を徹底できず、減少できなかった。危機管理マニュアルはほぼ完成した。 ②融合計画策定のため情報交換をした。 ③グループ主体の不祥事防止研修を実施し、不祥事ゼロを達成した。 ④超過勤務状況を衛生委員会で確認し、長時間勤務者には、産業医の面談を実施した。	①「慣れ」による感染防止意識の低下を防ぐために、日々SHRを活用して、感染防止の啓発活動を行う。危機管理マニュアルは来年度前期で完成させる。 ②行事予定・施設利用情報を踏まえ、融合計画策定と研修を実施する。 ③セルフチェックとグループ主体の研修を継続し、不祥事ゼロを継続する。 ④超過勤務状態確認と産業医面談を継続し、1日単位の休暇取得の呼びかけを継続する。	感染症対策については、適切に対応している。支援学校分教室との融合計画は学校の特色となるものだと思う。事故防止については、引き続き今後も適切に対応してほしい。働き方改革については、呼びかけを継続してほしい。	①日々の消毒作業等と徹底した黙食指導を実施し、感染者数を最小限に抑えることができた。 ② 令和5年度の受入に向けてハード面の整備・引っ越しなどは無事終了した。今後は両校の協力体制を丁寧に調整していく。 ③ 研修会を実施するとともに、点検体制の整備をすすめた。事故・不祥事ゼロに向け、さらなる点検体制の整備を行う。 ④ 業務のオンライン化により勤務時間の有効活用につなげることができた。	① 国や県の感染症対策を踏まえ、継続して衛生管理体制の整備に努めるとともに、生徒への保健指導も徹底する。 ② 連絡調整のためのワーキンググループを中心に、分教室と連携を密にとり、課題を解決する。 ③ 研修会を工夫するとともに、チェックシート等を用いた点検を実施する。 ④ 業務のオンライン化をさらにすすめる、仕事の能率化をはかる

